

～地域ですすめる具体的な支え合い活動とは～

日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金）18：00～19：30

場 所：川崎市 ミューザかわさき研修室 1・2・3

参加人数：90 人



平成 30 年度第 2 回目となる今回は、参画団体を 88 団体に拡充して初めてのグループワークを取り入れた手法での開催となりました。はじめに、地域住民による支え合い活動の実践状況を聞き、続けて 8 つのグループに分かれて地域でやっていることやできることについてワークショップ形式で話し合いました。

市長挨拶

昨年行った市債に関する企業・投資家向けの説明会において、多くの投資機関から「地域包括ケアシステムの取組がどうなっているか」ということを聞かれた。地域包括ケアシステムの構築が、川崎市の最も重要な政策のひとつであるということに認識していただいていると感じた。持続可能な地域づくりのために、皆さんには引き続き、協力していただきたい。

1. 川崎市における地域包括ケアシステムの取組（地域包括ケア推進室）

（1）区役所等の組織体制づくり

- ・平成 31 年 4 月に、保健福祉センターを「地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）」に改称し、地域包括支援センターとの連携や、支援機能を強化
- ・高齢・障害課に精神保健係を設置
- ・児童相談所の体制強化を図り、地域みまもり支援センターとの連携を推進

（2）推進ビジョン第 2 段階における取組み

①意識づくり

- ・連絡協議会に参画している団体・企業同士の顔が見える関係づくり
- ・市政だよりの活用、パンフレットの改定、マンガの作成
- ・認知症サポーター養成講座の開催

②仕組みづくり

- ・医療需要に合わせた病床機能の整備と、在宅医療を支える医療機関連携強化
- ・医療と介護をまたぐ多職種の連携方法の具体化
- ・在宅療養や看取りに関する普及啓発
- ・高齢者、障害者、児童など各分野の包括的な相談支援に関する実態調査と対応策の検討

③地域づくり

- ・地区カルテ等を活用した自助・互助の活性化
- ・ボランティア活動振興センターやかわさき市民活動センターなどによる支援を推進し、ボランティア、NPO、町内会、自治会等の支援に向けた取組みを推進

2. 市内の活動紹介～地域ボランティアグループ「ポプラ・ささえあい」（麻生区白山）

報告者：荻生和成さん 新井フサ子さん

平成 25 年から、ちょっとしたお手伝いで地元の「困った」に対応している。活動範囲は歩いて行ける所。メンバーは 26 名で、手伝いは二人体制で行い、基本料金は 1 件 100 円（30 分以内）。麻生区は 7 区の中で最も高齢化率が高く、新ゆりグリーンタウンも 30%以上が 70 才以上。住民たちの自主的な支え合い活動が必要とされている。お手伝い活動は発足以来、合計で 298 回になった。講習会や歌声喫茶の開催、ポプラ祭りで出店、延長保育のお迎え、幼児の一時預かり、地域包括支援センターでの地域活動への参加なども行っている。ヘルパー的なことを請け負わないよう注意している。課題は、依頼者が気軽に依頼しやすいような雰囲気づくり、新たなニーズに応じたお手伝いの追加、後継者（65 才～70 才）の確保である。

グループディスカッションで話し合いました！ ～地域包括ケアのためにやっていること、できること～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（金融、不動産、鉄道・運輸、通信、配達、飲食サービス等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が8つのグループに分かれて、実施していることや今後できることについて意見を出し合いました。主な意見をご紹介します。

Aグループ

- 母親の育児支援
- 暮らしの中の困り事の電話相談
- 施設を日常的に開放し、部屋を無料で貸している
- 地域の保健室の運営ができるとうい
- スマートメーターや電力センサーのデータを活用した高齢者の見守りの展開



共通で出されたキーワード

- ◎ 世代を超えた支援の場・交流の場
食事サービス/食堂/会食会/認知所カフェ/地域の人々が集まれる憩いの場の提供/場所の貸し出し/地域での声を聞く/ご近所つきあい
- ◎ 健康維持・介護予防
- ◎ 見守り・困り事支援サービス・災害時のたすけ合い体制
地域見守りネットワークへの参加/障害児者のサポート/買物支援
- ◎ 相談・コーディネート
多職種のプロがつながる/活動や資源を結びつける/まちかど介護相談窓口
- ◎ もっと幅広い普及啓発・活動支援
交通安全教室・災害対策・防災講習会/地域の防災イベント/介護教室を知る/学生の介護職体験/認知症サポーター養成講座
- ◎ 企業の社会貢献
他業種の方との意見交換/場所の提供

Hグループ

- 救命講習、地震体験車の運営
- 介護いきいきフェアへの出展を15年続けている
- 大学や中学校、産業界、町会等と認知症サポートや「RUN伴」*で連携強化
- 団体のつなぎ、マッチング



Bグループ

- 在宅の利用者さんの電球の交換等に対応
- 地域で交通安全教室の開催（保育園、幼稚園、小学校）
- いこい喫茶（笑いヨガ・健康チェック等）
- デイサービスの場所を使っていない時間に地域の方にお貸しする
- 障害者雇用（ポスト投かんの業務）



Gグループ

- 仕事で各家庭を訪問しているので外観の異変に気づいたら報告すること
- 毎年「RUN伴」*に参加している
- 施設として小、中学生の介護体験
- JA支店窓口を使用した活動
- 障害者の社会参加やスポーツ活動の支援者養成



● …「やっていること」

○ …「できること」

Cグループ

- よく嘯む、歌が歌えるように口腔ケア
- 料理教室、低栄養対策
- 市内各区歯科医師会と地域みまもり支援センターの顔の見える関係づくり
- 在宅の食事指導、歯科医療の推進
- 店内イートインで認知症カフェ開催



Dグループ

- 認知症患者のお散歩介助
- 配達担当員が地域組合員の見守り活動
- 防災活動 ゴミ拾い
- 「まちかど介護相談窓口」事業への協力
- 地域の障害児者のサポート
- 配達センターを地域に開放



Eグループ

- 認知症サポーターとしての活動、「RUN伴」*参加
- 配達時に住宅の玄関ポストやお庭の様子がおかしい時に声かけ、連絡をする
- 社内での認知症の講習会・介護教室
- 福祉避難所としての活用
- LPガス消費者を招いての懇談会に安全安心生活の支援



Fグループ

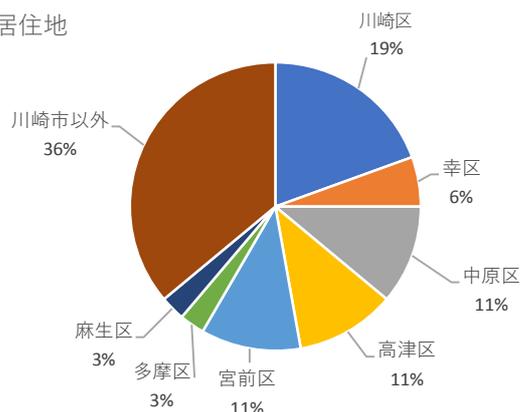
- 在宅医療できます、と伝えている
- 相談機関や施設の専門職と月1回アフター5での勉強会と懇親会
- 一人暮らし高齢者の方の見守り
- 支える専門職とつながるチームづくり
- 町会の集まりに介護予防の出前講習会



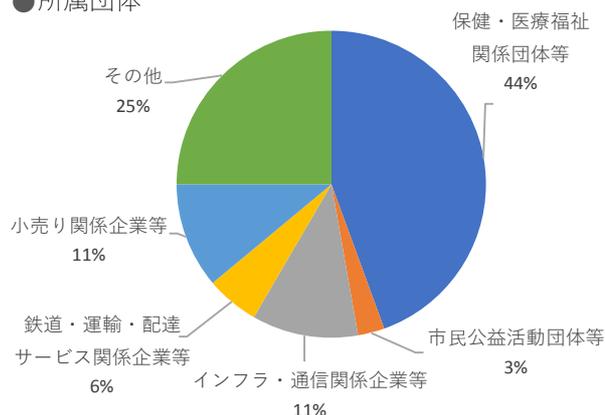
*RUN伴(ランとも)：今まで認知症の人と接点がなかった地域住民と、認知症の人や家族、保健・医療・福祉関係者が一緒になり、タスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベント。2011年に始まった。

【参加者のアンケート結果】(n=36)

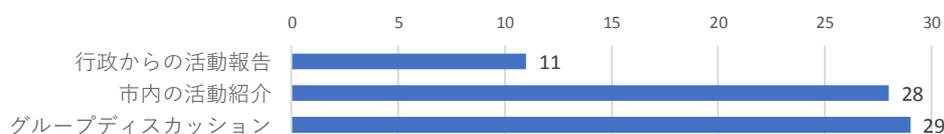
●居住地



●所属団体



●参考になった内容



●今後取り上げてほしいテーマ等

(1) 行政について

- ・実際の事例を聞きたい
- ・ケアシステム自体を理解できていないので、もう少し説明いただきたい

(2) 市内の活動紹介について

- ・市内、各区での活動を多く知りたい
- ・好事例や成功している取組の紹介
- ・写真を使用した事例紹介がわかりやすい

(3) グループディスカッションについて

- ・顔の見える関係、協力について話したい
- ・高齢者対策に絞ったテーマで
- ・多職種のお話をもっと聞きたい

(4) その他

- ・もっと企業や団体と連携ができると感じた
- ・分科会的な活動を定期的に行うことができないか

●グループディスカッションの感想

- ・時間がもう少し欲しかった
- ・グループ内の様々な活動をされている方の話を詳しく聞きたかった
- ・つながりや居場所等、場所や仕組みにポイントがあることがよく理解できた
- ・それぞれの取組みの横の連携ができればすばらしい
- ・それも包括支援につながるのかと、それなら私にもできそう！と参考になった
- ・イベント、人の集まりの重要性を感じた
- ・各団体の専門性から考える地域ケア
- ・企業の取組がたくさんあり印象に残った

懇話会（交流会）の御報告(同日 19:30～)

連絡協議会終了後、市民交流室において交流会を開催しました。連絡協議会では時間の都合もあり発表できなかったグループにも発表をしていただきながら、参加者全員に自己紹介していただきました。

歓談中は、グループワークでは話さなかったことをグループ以外の方と振り返ったり、日頃の活動の意見交換などが行われ、和やかな時間があっという間に過ぎました。

最後は、埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授の田中滋様から「地域包括ケアシステムの構築にためには、このような会を通じて顔の見える関係づくりを進めることが大変重要だ」と、市の取組が一層進むようエールをいただきました。

次回連絡協議会でも交流会を開催しますので、ぜひご参加ください。